

6-3

意識改革

環境づくり

ご自分の意思を尊重した環境づくり

「出来ることはご自分で」

特別養護老人ホーム 成幸ホーム

発表者：林 宏樹	共同研究者：佐藤 多恵子
所在地 東京都品川区中延 1 丁目 8 番 7 号	
TEL：03-3787-3616	E-mail： seiko-h@east.cts.ne.jp
FAX：03-3783-6580	URL： http://www.seiko-home.com

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	特養 80 床、ショートステイ 16 床、デイサービス、支援センター併設する、高齢者総合福祉施設です。商店街の真ん中にあり、また医院も併設し、地域とのふれ合いを大切にしている施設です。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉 ○ ご利用者が自分で考え、ご自分で行動出来るようになる環境を理想とした、ご利用者と職員の意識改善。 ○ ご利用者の生活面で、どこまで行なえるのかの再把握、再認識。職員間の情報共有の徹底。 〈具体的な取り組み〉 ○ 食事環境の改善 ・ 食事時、各テーブルに小さい急須を設置し、ご自分でお茶が入れられる環境の提供。 ・ 食事時、各テーブルに台布巾を設置し、ご自分で、机を拭ける環境の提供。 ○ 職員の意識改革 ・ 勤務フロアごとに毎日目標を立て、ご利用者に見られる課題の明確化。 ・ ご利用者の新たな姿を発見できた際に記入できるよう、記録用紙を用意。 ・ 何事も直ぐに介助するのではなく、ご利用者が出来ないことをお手伝いするという職員間の統一したサービス提供などの意識づけ。 ○ 情報共有の徹底 ・ 通常使用される個人記録以外にも、別紙に記録用紙を用意し、ご利用者の身体的、精神的な詳細な記録に努める。	〈活動の成果と評価〉 ○ 食事環境の改善により、食事やお茶などを待っているだけではなく、ご自身でお茶を入れる、ご飯をよそうなどの積極的な行動が見られるようになった。 ○ 職員を介さず行動が出来るようになった為、ご利用者同士のコミュニケーション量が増えた。 ○ 職員間に一つの目標を立てることにより、職員一人ひとりが考えて行動できる様になった。 〈今後の課題〉 ○ 継続されるよう周知徹底していく。 ○ ご利用者の意思で行動しやすい環境を増やしていく。具体的には入浴場面や排泄介助時等。 ○ ご利用者の身体状況、精神状況をより多く把握し、ご利用者の意思に沿った、意欲的なフォローアップを目指していく。 ○ ご利用者同士のコミュニケーションの増加に伴ない、トラブルの増加も見られる。トラブルが何故起きるのか、無理に解消の手口を探すのではなく、受容した上でのフォローアップを行なっていく。
---	--

【メモ欄】